

## 第3章 圏域の中長期的な将来像・第4章 連携協約に基づき推進する具体的取組の策定に向けて

### 【案件の内容について】

青森圏域連携中枢都市圏ビジョンの第1期取組期間（令和2年度から6年度）における「主な取組の成果及び課題」と「青森圏域の現状」を踏まえ、第2期ビジョンにおける「第3章 圏域の中長期的な将来像」及び「第4章 連携協約に基づき推進する具体的取組」の策定に向けて、ご意見を頂戴するもの。

### 【資料2-(3)-2について】

- ・資料には、国が示す連携中枢都市圏の取組分野ごとに、青森圏域における主な取組として、10の取組を記載しており、それぞれ、第1期取組期間における成果及び課題と取組内容に対応する青森圏域の現状データを記載しています。
- ・資料右端「第2期ビジョンに向けて」は、主な取組ごとに、成果及び課題と青森圏域の現状データを踏まえ、第2期ビジョンにおける「圏域の将来像」及び「具体的取組の方向性」の検討に当たり、ポイントを整理したものです。

委員の皆様には、当該資料を参考としていただき、「目指すべき圏域の将来像」や「具体的取組の今後の方向性」などについて、ご意見を頂戴したいと考えております。

## 第3章 圏域の中長期的な将来像

[参考：第1期ビジョン第3章（抜粋）]

### 1 圏域の将来像

本圏域は、陸奥湾に面し、八甲田連峰や中山山脈の山々に囲まれた豊かな自然や美しい景観で名高い龍飛崎や夏泊半島など風光明媚な地域であり、りんごやトマト、ホタテといった全国的な知名度を誇る農水産物の宝庫です。

また、北海道・北東北の各地に点在する縄文遺跡の17箇所中3箇所（大平山元遺跡・三内丸山遺跡・小牧野遺跡）が圏域に集中する縄文遺跡の宝庫であるとともに、世界に誇る「ねぶた祭」や江戸時代発祥の神事と伝えられる「荒馬踊り」などの伝統文化など、豊かな地域資源を有しています。

また、古くから海運のネットワークにより地域経済が発展してきた歴史があり、現在においても北海道など圏域外への3つの航路や、東北自動車道や青森道といった高規格道路網、東北新幹線などの広域交通・物流網、4つの国内定期路線と3つの国外定期路線による航空網を有する交通の要所となっています。

これらを背景に国内外からの交流人口が年々増加しており、さらには、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催や2025年に本県で開催される国民スポーツ大会により、スポーツを通じた国内外の交流の拡大も期待されます。

本圏域は、明治11年（1878年）に郡区町村編制法に基づいて設置された「東津軽郡」の区域とほぼ同一であり、道路・鉄道といった交通網の発展等に伴い、圏域内の住民生活や経済活動など、様々な面において結びつきが強まってきました。

一方、本圏域では、人口減少とともに一層の高齢化の進展に伴い、圏域内での生産・消費などの経済活動の衰退や、過疎化が進行する地域での福祉・教育など行政サービスの維持が困難となる恐れがあるなどの課題を有しています。

本圏域では、これまで農業振興、観光振興などにおいて必要に応じて、各市町村で連携して取組を行ってきましたが、このような課題を認識した上で、歴史的な背景や圏域内の結びつき、従来からの取組の経緯などを踏まえ、圏域に有する地域資源を活かしながら、圏域の住民はもちろんのこと、圏域外の住民にとっても魅力ある、将来にわたって持続可能で発展する圏域を目指していきます。